



## イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 525 回 超一級天然資源や有名観光資源に頼らない観光対策

2013.5.19

先般、我が故郷熊谷を中心とした「埼玉県北部の保守系市議会議員団」の研修会が実施された。その場でお話した「観光からの街づくり」より、その中身を少しご披露したい。

…「観光」に対する考え方が変わった。観光の語源は易経の「**親国之光、利用賓于王**」

(くにのひかりをみるは、もっておうにひんたるによろし)に基づくもので、本来は他国の輝かしい文物を視察するの意であるから、国際的なもののみを指した。観光の語がもっぱらツーリズムの意に広く用いられるようになったのは、大正年間以降である。国際・国内を問わず用いられ、また内容も遊覧・慰楽・休養などをも含め、広範なものとなった。(財)日本交通公社『現代観光用語事典』まず、何か「観光資源」ありき…から始まる、いわゆる物見遊山(sightseeing)という概念があった。

その、「観光」の考え方、観光そのものの考え方が変ってきた。

テーマは、物見遊山(sightseeing)から、「**DO観光へ**」。DO観光とは、体験型、参加型の観光、目的で集まる、食べる、学ぶ、スポーツする、触れ合う、買い物、健康増進・予防など。そのキーワードは Sexy・Healthy・Beauty である。以上、「**超一級天然資源や有名観光資源に頼らない観光対策**」、つまり DO 観光が主体的施策のメインになるだろう。

その DO 観光の代表的事例が「**都市観光**」である。都市観光は、わが国の従来の観光のように、温泉や神社仏閣など名所・旧跡を見物するだけでなく、商業施設での買い物や飲食、芸術の鑑賞・体験、会議やイベントへの参加、歴史・文化の学習なども含み、多様な都市の魅力を楽しむものだ。観光を通じた市民との交流の中で、来街者は市民に外から見た街の魅力を市民に伝え、市民は自分が住む街の魅力を再発見し、「友を招き、案内したい街」つまり「自慢できる街」として、誇りを持って街の魅力を発信するようになるだろう。市民と来街者の交流の循環によって、街の賑わいがさらに増し、地域経済が活性化していくはずである。このように、「都市観光」は、観光の視点から街の魅力を磨くことで、様々な経済・社会的効果をもたらし、より快適で過ごしやすい街づくりを実現できるものと思っている。

都市観光として位置づけられる来街者の目的により、具体的観光パターンが見えてくる。

例えば…**産業観光**(老舗企業訪問、工場見学)、**イベント観光**(催事により集客、お祭り、音楽会等)、**スポーツ観光**(観戦&参加)、**健康・医療観光**(予防、診断待ち、ウォーキングツアー、ハイキング)、**街かど観光**(地域おこし、地域の自慢、ゆるキャラ戦略)、**グルメ観光**(ご当地グルメ巡り、B級グルメ)、**コンベンション観光**(会議・学会・大会誘致等)…等々となる。わが街にとって、どうすればいいか、更に詳しく、その中身を見てみましょう。…という具合に、市議会議員団研修会は続いていった。お互いに、結構熱い時間を共有できたと思っている。